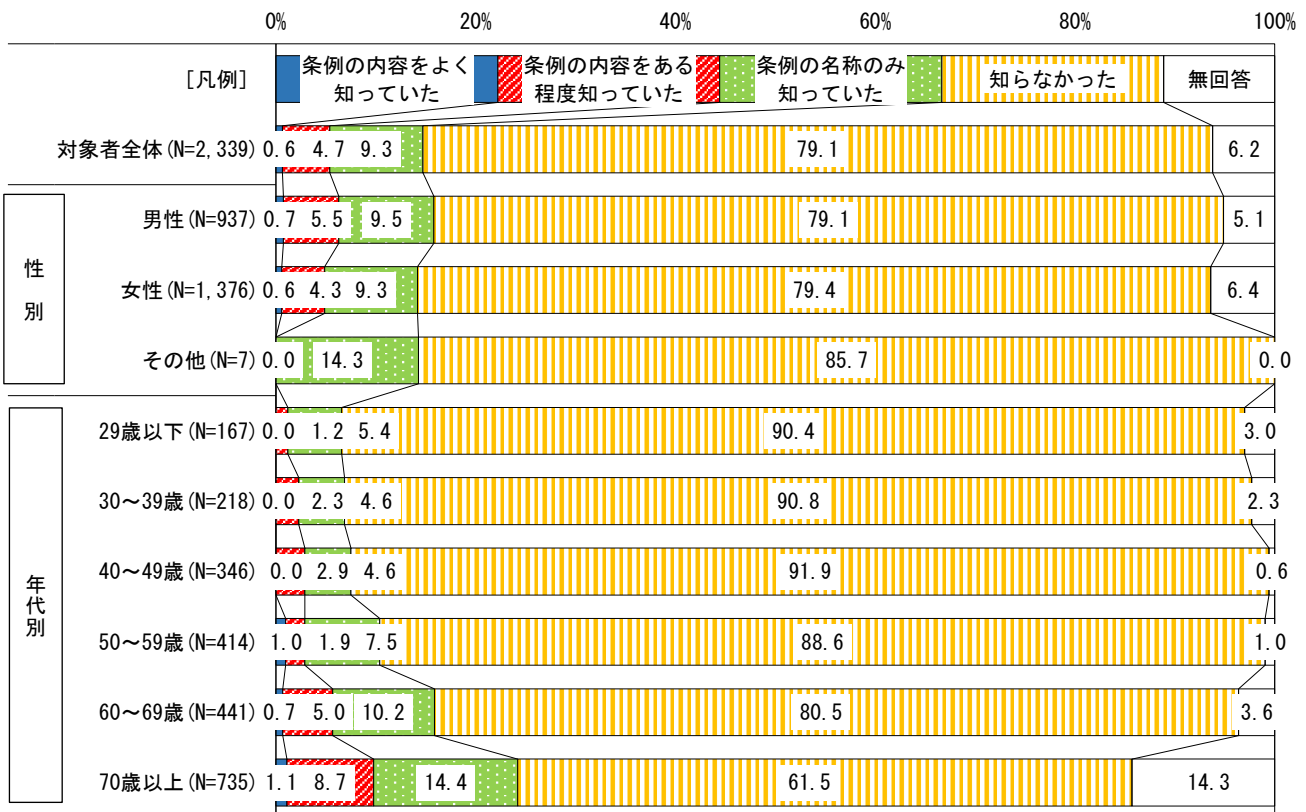
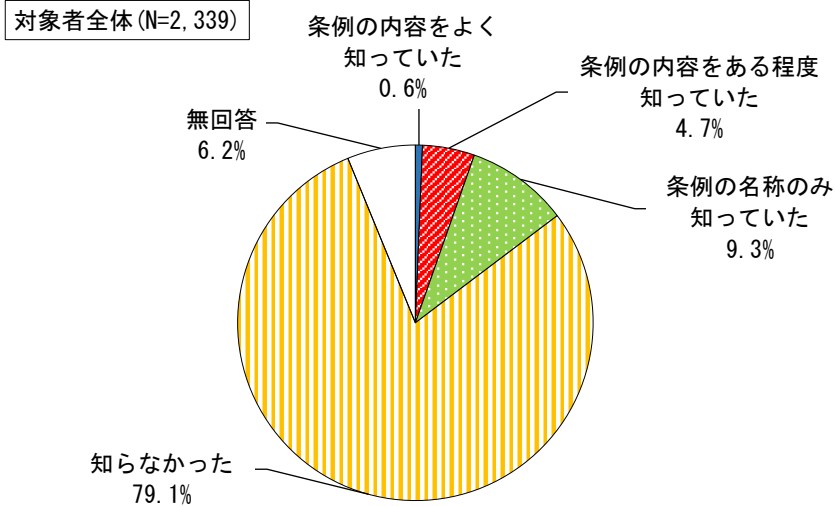


(5) 障がい者コミュニケーション条例等について

◇障がい者コミュニケーション条例の認知度

問32 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がい者コミュニケーション条例の認知度は、「知らなかった」が79.1%



【全体】障がい者コミュニケーション条例の認知度は、「知らなかった」が79.1%、「条例の名称のみ知っていた」が9.3%、「条例の内容をある程度知っていた」が4.7%となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

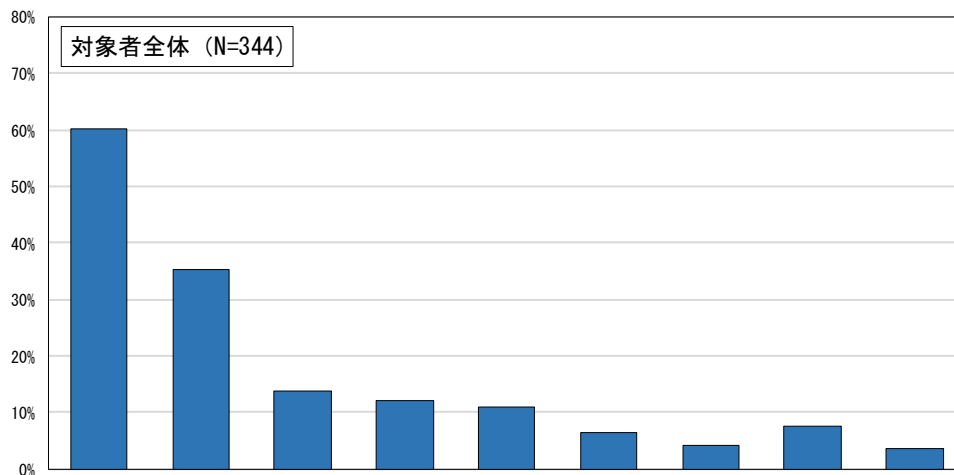
【年代別】「知らなかった」が40歳代(91.9%)で最も高く、最も低い70歳以上(61.5%)と比べると30.4ポイントの差となっている。

◇障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけ

《問32で「1 条例の内容をよく知っていた」「2 条例の内容をある程度知っていた」「3 条例の名称のみ知っていた」と答えた方にお聞きします。》

問32-1 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を何で知りましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけは、「広報さっぽろ」が60.2%



対象者数		広報さっぽろ	新聞・テレビなどの報道	ポスター・チラシ・パンフレット	家族、知人	市役所や区役所の窓口	ホームページ	その他	覚えていない	無回答	
対象者数		(%)									
対象者全体		344	60.2	35.2	13.7	12.2	11.0	6.4	4.1	7.6	3.5
性別	男性	148	65.5	40.5	14.2	7.4	13.5	10.1	4.1	6.1	2.0
	女性	195	56.4	31.3	12.8	15.9	9.2	3.6	4.1	8.7	4.6
	その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	11	27.3	36.4	18.2	-	9.1	9.1	18.2	-	-
	30～39歳	15	40.0	13.3	6.7	13.3	-	20.0	13.3	20.0	-
	40～49歳	26	34.6	15.4	11.5	7.7	7.7	3.8	11.5	23.1	3.8
	50～59歳	43	48.8	34.9	16.3	14.0	4.7	9.3	4.7	20.9	-
	60～69歳	70	58.6	38.6	15.7	11.4	7.1	7.1	-	7.1	4.3
	70歳以上	178	70.8	38.8	12.9	13.5	15.2	4.5	2.8	1.7	4.5

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけは、「広報さっぽろ」が60.2%、「新聞・テレビなどの報道」が35.2%、「ポスター・チラシ・パンフレット」が13.7%となっている。

【性別】「広報さっぽろ」、「新聞・テレビなどの報道」、「ホームページ」は、男性が女性より6.5ポイント以上高くなっている。また、「家族、知人」は、女性が15.9%と、男性の7.4%より8.5ポイント高くなっている。

【年代別】29歳以下では「新聞・テレビなどの報道」が、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「広報さっぽろ」が最も高くなっている。

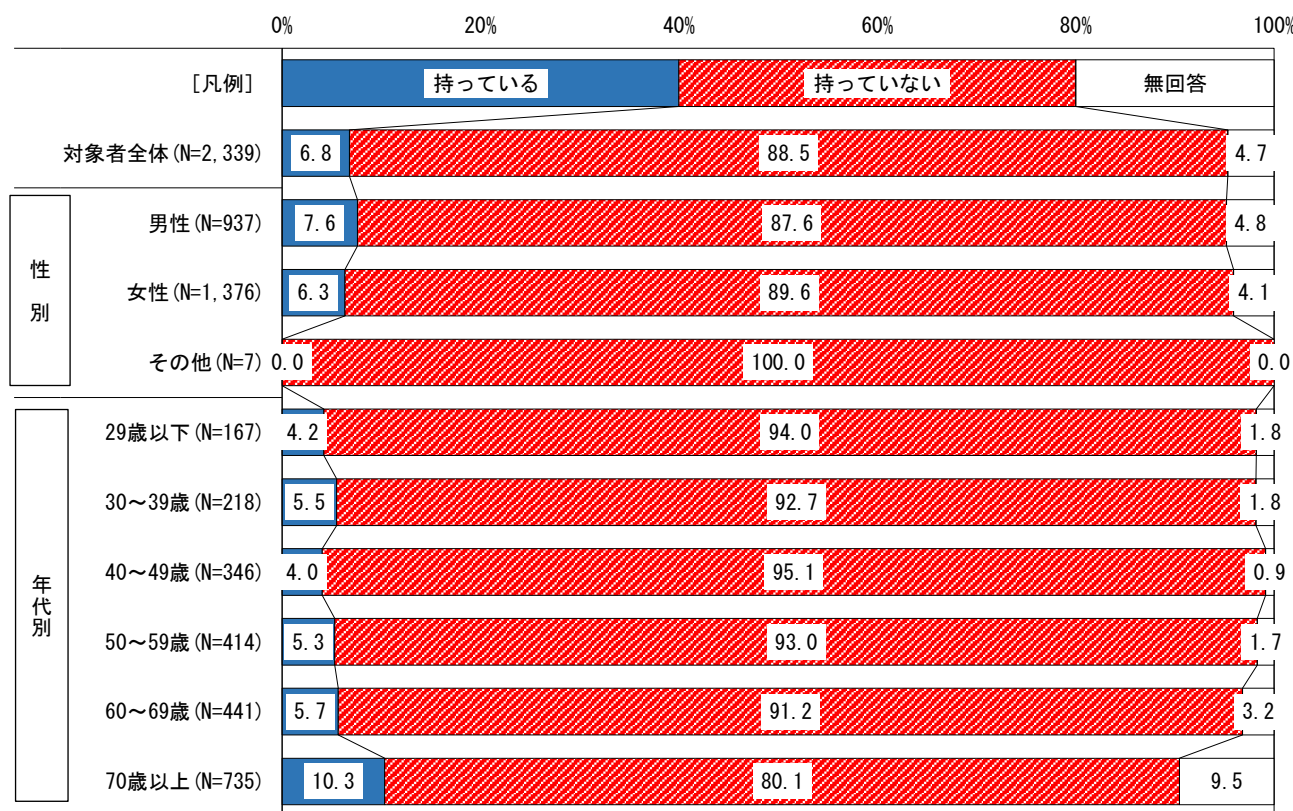
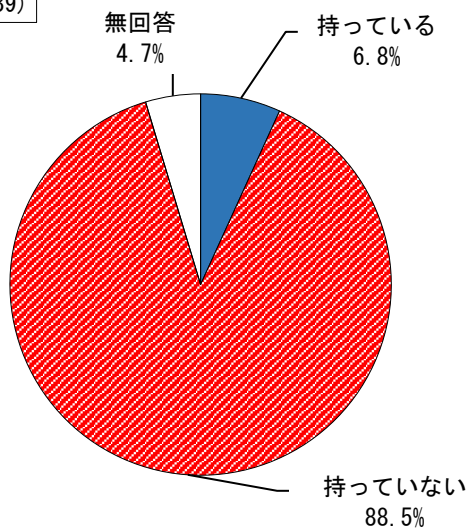
◇障がい者手帳の保有状況

《皆さまにお聞きします。》

問33 あなたは、障がい者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）を持っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がい者手帳の保有状況は、「持っていない」が88.5%

対象者全体 (N=2,339)



【全 体】障がい者手帳の保有状況は、「持っていない」が88.5%、「持っている」が6.8%となっている。

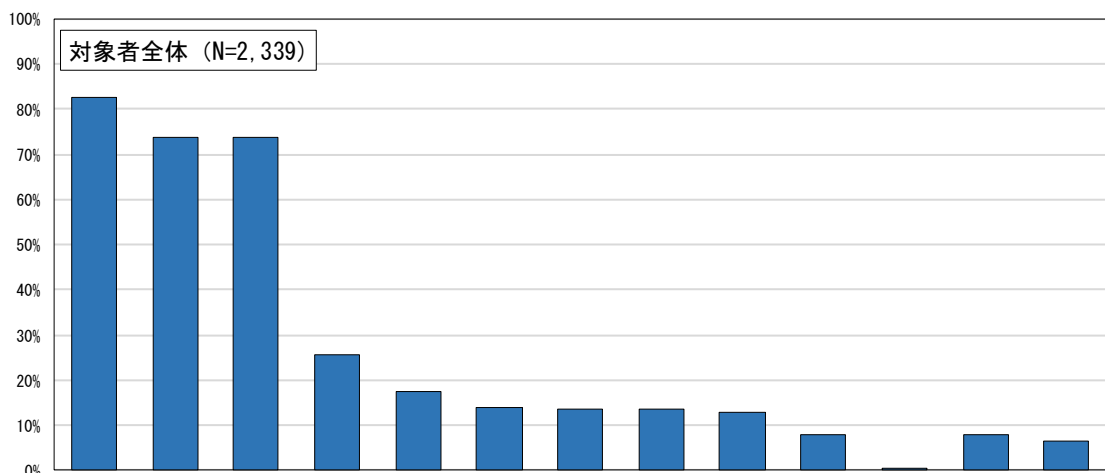
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「持っている」が70歳以上(10.3%)で最も高く、次いで60歳代(5.7%)、30歳代(5.5%)となっている。

◇障がいのある方とのコミュニケーション手段で知っているもの

問3 4 障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で、あなたが知っているものは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

障がいのある方とのコミュニケーション手段で知っているものは、「手話」が82.4%



		対象者数	手話	筆談	点字	指点字	手のひら書き	口文字	意思伝達装置	要約筆記	音訳	触手話	その他	特になし	無回答
		(%)													
対象者全体		2,339	82.4	73.9	73.6	25.7	17.4	14.1	13.6	13.5	12.9	8.0	0.5	7.8	6.5
性別	男性	937	78.3	68.2	69.2	23.5	13.2	9.7	12.3	12.8	9.2	6.7	-	11.2	6.3
	女性	1,376	86.0	78.3	77.4	27.3	20.2	17.2	14.4	14.0	15.4	8.9	0.8	5.4	6.0
	その他	7	85.7	85.7	71.4	57.1	42.9	28.6	42.9	28.6	28.6	14.3	-	-	14.3
年代別	29歳以下	167	89.2	83.8	86.8	34.7	29.3	22.8	16.2	19.2	18.0	16.8	0.6	6.0	1.8
	30～39歳	218	90.8	83.0	81.7	33.0	27.1	23.4	20.6	18.3	17.0	10.6	0.5	4.1	3.7
	40～49歳	346	89.6	86.4	83.8	28.6	19.9	17.1	13.6	10.4	14.2	8.1	0.9	4.3	2.6
	50～59歳	414	92.0	85.5	85.3	26.6	19.1	16.4	17.4	13.5	17.6	7.5	0.7	3.1	2.4
	60～69歳	441	86.6	76.9	77.3	25.6	15.0	11.3	14.7	14.3	12.0	6.1	-	7.7	3.9
	70歳以上	735	68.6	55.9	55.9	20.0	11.3	8.7	8.2	12.0	7.9	6.7	0.4	13.3	13.1

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】障がい者とのコミュニケーション手段で知っているものは、「手話」が82.4%、「筆談」が73.9%、「点字」が73.6%となっている。

【性 別】「手話」、「筆談」、「点字」、「手のひら書き」、「口文字」、「音訳」は、女性が男性より6.2ポイント以上高くなっている。

【年代別】「指点字」、「手のひら書き」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

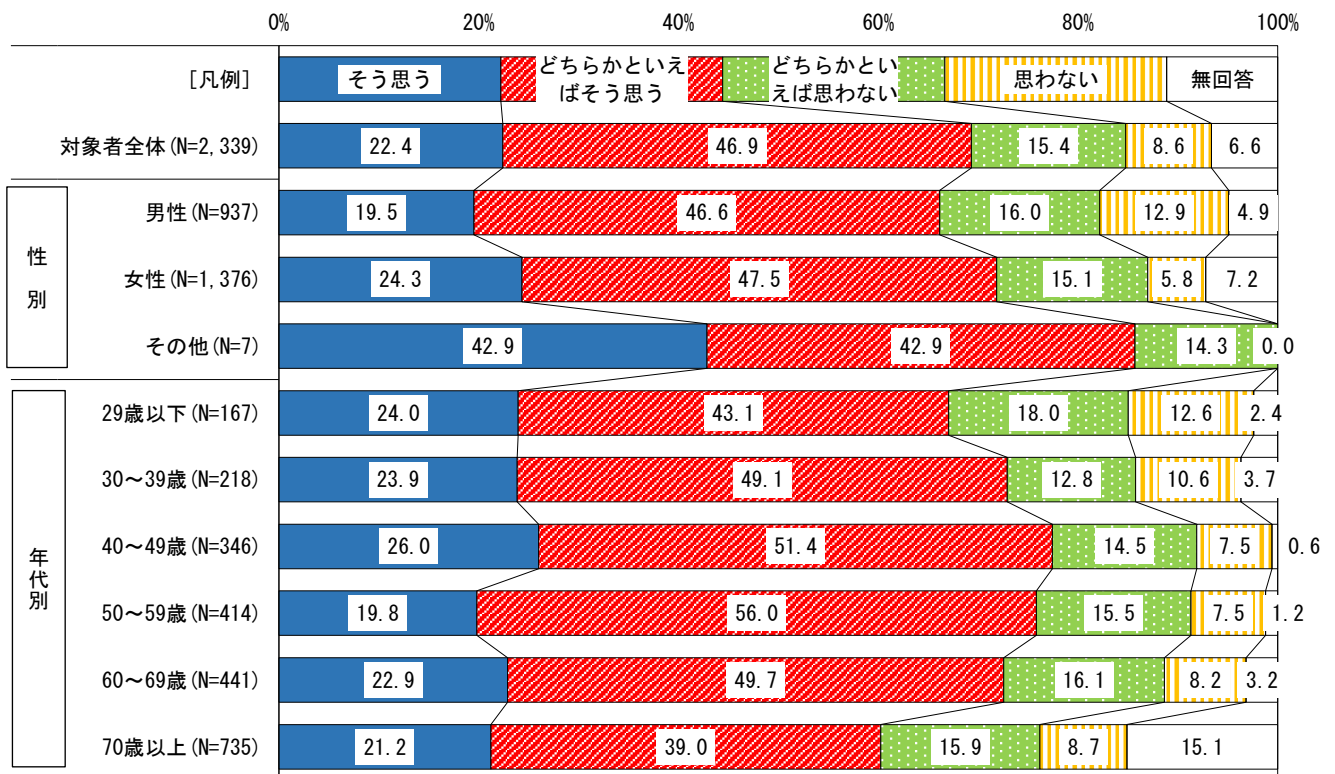
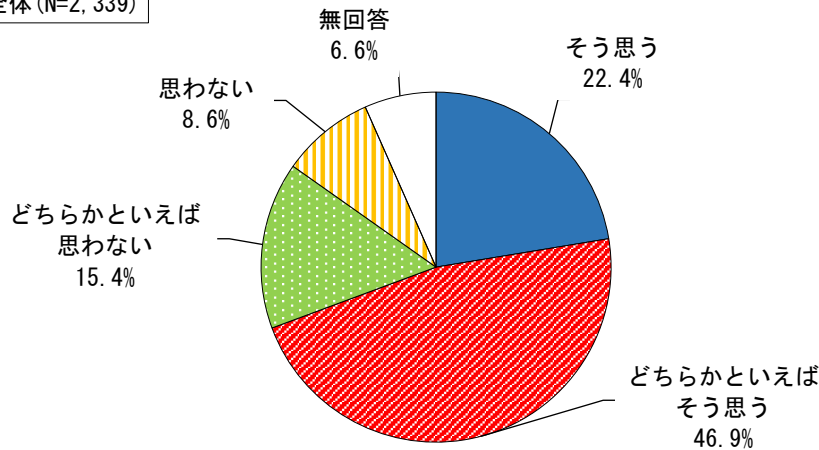
◇コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、何かに取り組みたいと思うか

問35 あなたは、コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、市民として何かに取り組みたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、何かに取り組みたいと思うかは、“そう思う”が69.3%

“そう思う” = (「そう思う」 + 「どちらかといえばそう思う」)

対象者全体(N=2,339)



【全体】 コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、何かに取り組みたいと思うかは、「そう思う」が22.4%、「どちらかといえばそう思う」が46.9%、合わせると69.3%となっている。一方で、「どちらかといえば思わない」が15.4%、「思わない」が8.6%、合わせると24.0%となっている。

【性別】 「思わない」は、男性が12.9%と、女性の5.8%より7.1ポイント高くなっている。

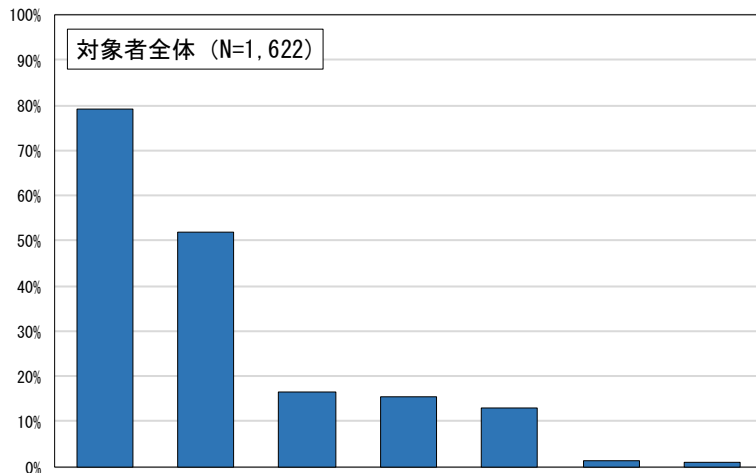
【年代別】 「そう思う」が40歳代(26.0%)で最も高く、次いで29歳以下(24.0%)、30歳代(23.9%)となっている。

◇コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために取り組みたいこと

《問35で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。》

問35-1 あなたは、コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、市民として具体的にどのようなことに取り組みたいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために取り組みたいことは、「日常生活の場面で困っている方がいたら助ける」が79.0%



		対象者数	日常生活の場面で困っている方がいたら助ける (%)	メディア（テレビやSNSなど）の中で、障がいに関する情報があれば気を配る (%)	障害のある方が行う行事、催し物に参加する (%)	ボランティア活動へ参加する (%)	講座に参加するなど、障がいのある方のコミュニケーション手段を学習し、実践する (%)	その他 (%)	無回答 (%)
対象者全体		1,622	79.0	51.8	16.6	15.5	12.9	1.5	0.9
性別	男性	620	73.7	52.9	15.5	16.1	11.0	1.5	1.3
	女性	989	82.3	51.3	17.6	15.1	14.3	1.4	0.7
	その他	6	100.0	33.3	-	16.7	16.7	16.7	-
年代別	29歳以下	112	75.9	42.9	11.6	17.0	11.6	0.9	-
	30～39歳	159	79.9	52.2	15.1	13.8	11.9	1.9	-
	40～49歳	268	81.3	49.3	18.3	12.7	13.8	2.2	0.7
	50～59歳	314	78.7	50.0	17.8	15.0	15.6	1.6	1.0
	60～69歳	320	81.6	57.2	15.0	18.1	13.1	1.6	0.6
	70歳以上	443	76.5	53.0	18.1	15.8	11.3	0.9	1.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために取り組みたいことは、「日常生活の場面で困っている方がいたら助ける」が79.0%、「メディア（テレビやSNSなど）の中で、障がいに関する情報があれば気を配る」が51.8%、「障害のある方が行う行事、催し物に参加する」が16.6%となっている。

【性別】「日常生活の場面で困っている方がいたら助ける」は、女性が82.3%と、男性の73.7%より8.6ポイント高くなっている。

【年代別】「メディア（テレビやSNSなど）の中で、障がいに関する情報があれば気を配る」が60歳代（57.2%）で最も高く、次いで70歳以上（53.0%）、30歳代（52.2%）となっている。

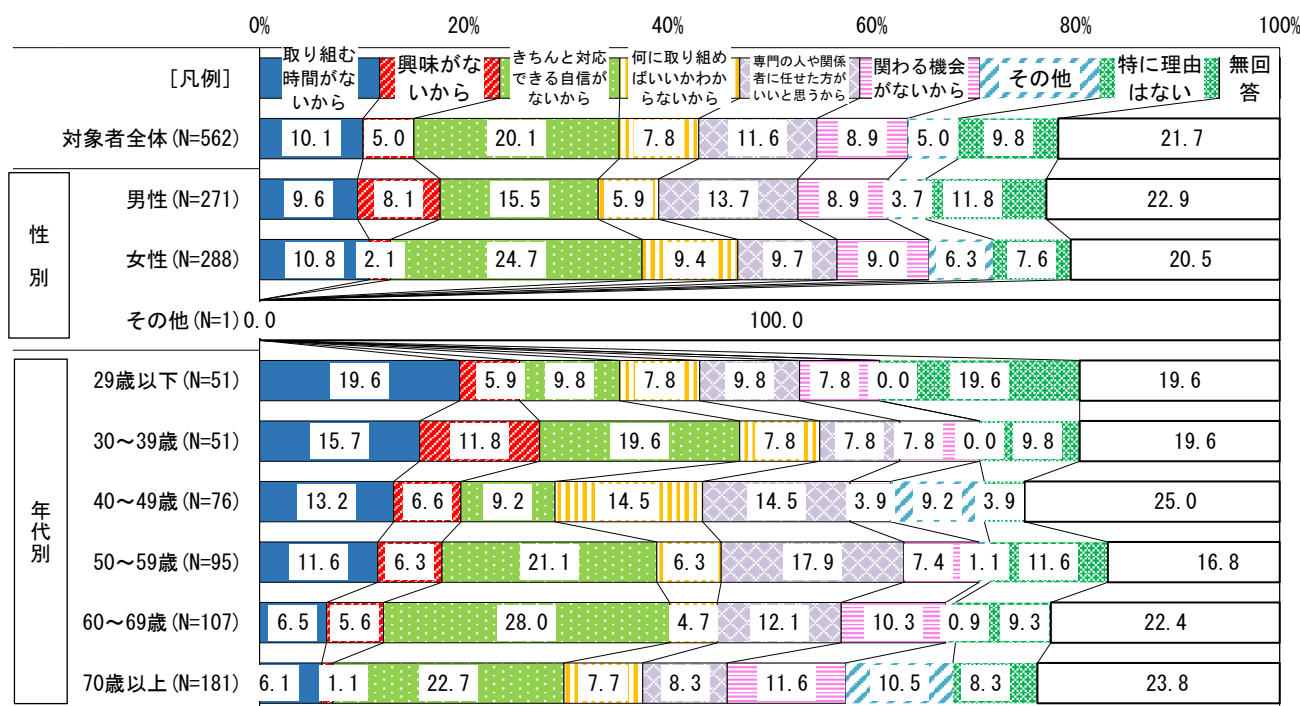
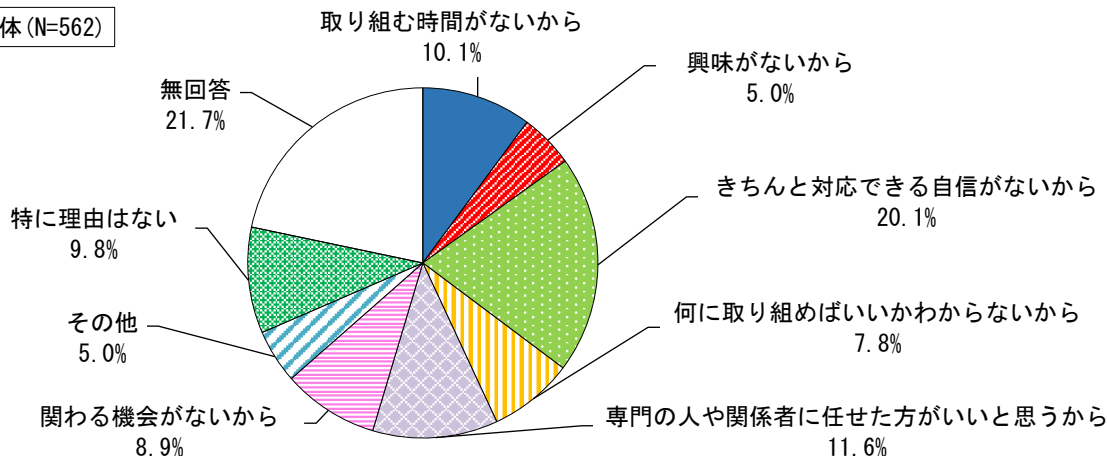
◇コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために何か取り組みたいと思わない理由

《問35で「3 どちらかといえば思わない」または「4 思わない」と答えた方にお聞きします。》

問35-2 あなたが、コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、市民として何か取り組みたいと思わない理由は何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために何か取り組みたいと思わない理由は、「きちんと対応できる自信がないから」が20.1%

対象者全体 (N=562)



【全体】 コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために何か取り組みたいと思わない理由は、「きちんと対応できる自信がないから」が20.1%、「専門の人や関係者に任せ方がよいと思うから」が11.6%、「取り組む時間がないから」が10.1%となっている。

【性別】 「興味がないから」は、男性が8.1%と、女性の2.1%より6.0ポイント高くなっている。また、「きちんと対応できる自信がないから」は、女性が24.7%と、男性の15.5%より9.2ポイント高くなっている。

【年代別】 「取り組む時間がないから」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。